



津山城を築いた森家の菩提寺「本源寺」(写真左)と、森家の後に津山藩主になった松平家の菩提寺「泰安寺」(写真右)。本源寺には森家の家紋「鶴丸」、泰安寺には松平家の家紋「三つ葉葵」が印された本堂などがある。



仁王堂が付属する愛染寺の鐘楼門。時代や宗派などによって異なる寺社の建築様式は、入口の門だけでもさまざま。



城西おかげめぐりマップ
 (津山市城西まちづくり協議会発行)
 御朱印を集めながら寺社をめぐる城西おかげめぐりを実施中。城西地区の寺社などについて、地域の皆さんがまとめた地図は、津山まちの駅 城西(作州民芸館)などで入手できる。現在、改訂版を制作中。
 圖同協議会(城西浪漫館内) ☎22-8688



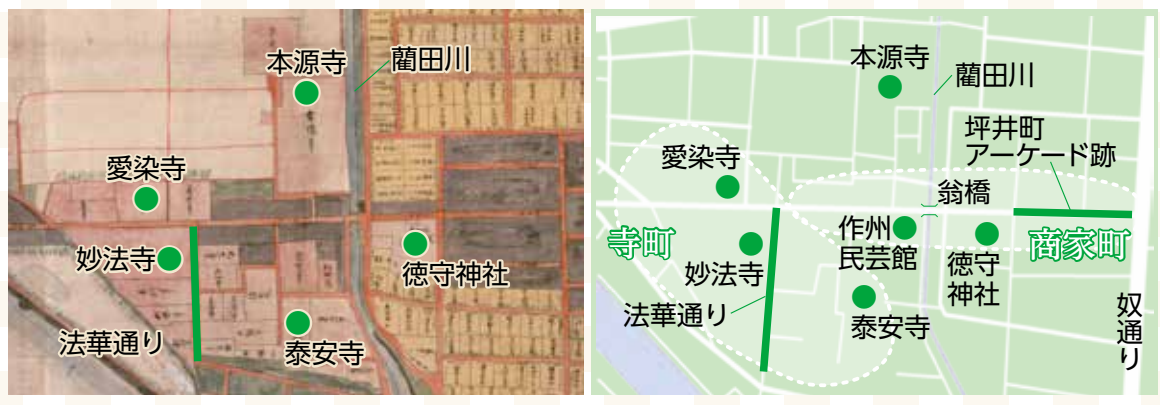
表門の脇に法塔がある構えが特徴的な日蓮宗の寺院3カ寺が並ぶ通称「法華通り」(写真上)と妙法寺の門と法塔(写真左)。



寺社の門や塀が連なる町並み。景観を遮る高い建物がないのも特徴。



徳守神社拜殿(写真右)と、彫刻が徳守神社本殿のものより古く、17世紀前半に建てられたと推定される撰社住吉神社本殿(写真左)。



今回紹介している寺などの位置。重伝建地区は主に西側の寺町、東側の商家町で構成する。江戸時代の地割が残っている津山の城下町は、昔の地図で町を歩くことができる。

静 寺町

静かに時を刻み続けるまち

城下町を守る
 津山城を建設する際に鶴山から移転したものの、新しく造られたものなどを含め、蘭田川の西には意図的に寺が集められました。
 戦国時代からの過渡期で不安定だった江戸時代初期に、西から攻めてくる敵から城下町を守るためだったともいわれます。
 重伝建地区内の13カ寺を始め、城西地区にはさまざまな宗派の寺院が集まり、今も残っています。
全国的にも珍しい寺院の集積地
 これだけの数の寺が集積して現在も残っている町並みは、全国的にも珍しいといわれています。
 たくさんのお寺が残っているため、町中にもかわらわらず、寺以外に周囲に高い建物がありませぬ。都会に行くと、寺がビルの中にぽつんとあるのを見かけますが、町中で当時とほぼ変わらない景色が見渡せるのも、城西地区の寺町の大きな特徴です。

城下町の出発点
 慶長8年(1603)美作18万6500石を拝領した森忠政は、翌9年に鶴山(現在の津山城跡)への築城を決め、その周囲に城下町の建設を始めました。
 城西地区にある徳守神社は、森忠政が城下町の建設に先立って、工事の安全を祈願し、「手斧始」として社殿を造ったことから、「城下の総鎮守」といわれています。城下町の出発点ともいえます。
 城の東を流れる宮川と西を流れる蘭田川に挟まれた地区に造られた当初の城下町を「内町」、その後、広がった部分を「外町」といいました。内町と外町の端に当たる翁橋付近には番所があり、城下に入出入りする人々を監視していました。



歴史まちづくり推進室 廣瀬幸子主任